

「和田小学校の校区内の遺跡について学ぶ取組」

1 学校名 日置市立和田小学校

2 学年・人数 6年・3名

3 日時・場所

- (1) 5月29日(水) 5・6時間目 14:05～15:50・本校総合学習室・校庭
- (2) 6月8日(土) 3時間目 10:40～11:25・本校総合学習室

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 農業開発総合センター遺跡群

(のうぎょうかいかつそうごうせんたーいせきぐん)

ア 窪見ノ上遺跡(くぼみのうえいせき)

旧石器時代、縄文時代早期～後期

イ 建石ヶ原遺跡(たていしがはらいせき)

旧石器時代、縄文時代草創期～晩期、古墳時代、中世

ウ 古里遺跡(くさといせき)

縄文時代晩期、中世

エ 吹上小中原遺跡(ふきあげこなかばるいせき)

旧石器時代、縄文時代草創期～早期、晩期、弥生時代、古墳時代～中世

(2) 特徴

24遺跡からなる上記遺跡群の内、旧吹上町内の3遺跡を児童に紹介した。窪見ノ上遺跡では、縄文時代早期前葉の石斧製作の痕跡と思われる資料が出土し、吹上小中原遺跡では、縄文時代早期の3本の石槍の埋納遺構や、古墳時代の集落跡からは畿内系初期須恵器が出土した。建石ヶ原遺跡では、縄文時代晩期の道跡と思われる遺構や中世の方形周溝墓が発見され、古里遺跡では、中世の集落(掘立柱建物跡12棟)と清状遺構が発見された。

5 保存会や地域との連携の具体

以前、県立埋蔵文化財センター(以後、県埋文と呼称)に勤務し、当該遺跡の発掘調査・報告書作成に携わった教頭が、6年生の社会科の授業の一環として同遺跡の紹介を行った。授業で紹介した遺物資料は県埋文に依頼し、貸していただいたものである。

遺跡紹介後には、上野原縄文の森の職員に来校していただき、他の教師も一緒に協力をもらいながら、実際の火起こし体験活動を行った。

また、後日には県埋文から借りた土器施文工具を使って、粘土に施文する体験活動も行った。

6 活用の取組の工夫した点

発掘調査の成果の紹介にあたり、事実に基づく資料の提示が重要であることから、遺跡に係る資料は報告書の写真を活用した。発掘調査の時代認定の重要

な指標である土層についての理解が発掘調査理解の前提であり、土層を形成する南九州の火山噴出物の堆積についても、噴出によりどのような被害がどこ迄及んだかを含めて、写真やイラスト等をもとに分かりやすく説明した。

写真だけでは実感しにくいいため、当該遺跡の生活した跡を示す重要な遺構に係る遺物を中心に、県埋文から借用した実際の遺物を交えながら、各時代における生活の様子について説明をするよう心掛けた。

後日には、県埋文から土器の模様作成に係る工具をお借りし、粘土に添付し、どのように縄文や貝殻文、押型文が形成されるかを体験してもらった。縄文を主体とせず、貝殻文主体の南九州の縄文土器文化についての理解を深められるよう、環境の違いを説明しながら施文体験を行った。

7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



<農業開発総合センター遺跡群の紹介>

<火起こし体験活動>



<縄文土器施文体験活動>

8 参加児童の感想・意見

- ・ 自分たちの学校周辺に、たくさんの遺跡があることを初めて知った。特に、壱岡の中に、古墳時代の大きな集落があったことにびっくりした。
- ・ 1万年以上前の土器が、きれいに残っていることに、おどろいた。昔の人は、すごい上手に土器をつくるんだなと感動した。
- ・ 火起こし体験は難しかったけど、みんな2回ずつつけることができ、ほめられてうれしかった。縄文時代の人には、火をつけるのにも、すごい苦労していたんだなと思った。今の時代は、何でも便利になって楽にできるようになっているんだと、実感した。